

## 山梨県総合計画審議会第5回地域産業元気部会 会議録

1 日 時 平成29年11月24日（金） 午後2時～午後2時30分

2 場 所 ホテル談露館「アンバー」

3 出席者

・ 委 員（50音順、敬称略）

稀代 康正 佐藤 裕子 辻 一幸 中込 健 中村 己喜雄  
西鍋 早葵 古屋 千鶴 宮下 珠樹 宮本 実佳 吉田 均

・ 県 側

総合政策部長 森林環境部長 林務長 産業労働部長 観光部長 農政部長  
（事務局：政策企画課）政策企画課長 政策主幹

4 傍聴者等の数 なし

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 総合政策部長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 会議に付した議題（すべて公開）

- (1) 答申案について
- (2) その他

7 議事の概要

- (1) 議題1について、資料により事務局及び部局長から説明し、次のとおり意見交換を行った。

（委員）

4 ページ目について、地域限定通訳案内士のことが記載されているが、最後のフレーズが「制度を維持発展させていくことが必要である」となっている。この「維持」の前に、「長期的に」という文言を入れてもらいたい。県がずっと実施するわけではないが、しかしながら制度としては2、3年で止めてしまえばすぐに消滅してしまう。地域限定通訳案内士の制度がうまくいかない他の地域は通常は短期間で終わっている。ここでは「関係機関とも連携しながら」と記載してあるので、県に長期間やれということだけではないが、やはり「制度を長期的に維持発展させていくことが必要である」と記載したほうがいいのではないかと思う。

(委員)

委員から意見が出たが、県からは何か意見はあるか。委員の意見でよろしいか。  
(県側：了承の意思を示す) ではそのように取り計らうようお願いする。

(委員)

本部会の所管事項ではないと思うが、教育関係の部会に記載されていないので伺いたい。県内産業への若者の就業を向上させるためには、他の地域とは違うインターンシップが必要だと思う。現在、大学コンソーシアムなどで実施しているプロジェクト型のインターンシップは、2週間ではなくて、数カ月掛けて一つのプロジェクトに取り組んでいくインターンシップだが、そのようなプロジェクト型のインターンシップを県内で推進していけば、県内の就業が多少上がるのではないか。

(産業労働部長)

インターンシップについては、3ページの基幹産業発展部会の担任事項にある、若者県内就職企画型のインターンシップが望まれるという部分に付け加えるということによろしいか。

(委員)

失礼した。教育関係の部会に記載があると思い、そちらばかり確認していた。このままで問題ない。

(委員)

空き家関係についてだが、空き家対策と遊休農地をうまくリンクさせて、今後、移住促進に向けた流れを構築できないか。本部会では空き家対策と遊休農地、空いた畑をどう利用していくかという議論があまりなかったが、今、私の農場には北海道や熊本など、遠くから農業をしたいという若者が大勢来て研修をしており、その方々が独立した時に遊休農地をうまく利用していけるような仕組みを構築することと、たくさんある空き家に住んでもらえるような流れがうまくリンクしていけると、移住促進にも繋がるのではないかと思うので、検討をお願いしたい。

(委員)

これは追加提言という形で、県で検討するようお願いする。

(委員)

3ページの観光の関係について、「海外における観光や県産品のPRの際には「富士山」を頭に付けたほうが認知度が高まる」という記載があるが、もっと補強したほうがいい。ここでは外国人というのがキーワードになっているが、日本の中でも富士山は山梨なのか静岡なのかという認識があるので、認知度を高めるには山梨イコール富士山、富士山イコール山梨と、富士山といえば山梨とイメージ付けるように、頭に付けるだけではない形で取り組んでもらいたい。資料では、外国人というのがキーワードになっているが、それだけではなく印象付け、認知度が高まるよう、頭に付けるだけではない工夫をして取り組むようお願いする。

以上

(2) その他

総合計画審議会の今後の審議スケジュールについて、事務局から説明した。

8 追加意見

部会后、提出された意見はなし